

# 信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報

【第3号】

発行人 松橋英幸  
事務局 長野市西長野6ノロ  
信州大学教育学部  
教育工学センター内  
TEL (0262) 32-8106 (代表)



いま、同窓会が課題にしていることは

同窓会長 松橋英幸

今春の教育学部合格者のうち、県内出身者率が四二・八％という結果に大きな衝撃を受けた。受験機会の複数化により地元の後退は予想していたものの、昭和六十年度の八六・二％がわずか三年間で半減したことになる。このため、郡市によっては合格者皆無という事態が出てきている。現在でさえ、教員の地域的需給の偏りが人事異動の大きなネックであり、今後さらに困難さを加えることになる。長野県教育の特色ある伝統は、広域人事により全県の教育水準の向上を図り、広く研修を積んだ教師が地元に戻って、地域に座りこんで有為な人材を育ててきたことであつた。いまその灯が消えようとしている。

もう一つの課題は、学部卒業生の教員就職の見通しがきわめて厳しいということである。本県の場合、当面は教員の大量退職、四十人学級や初任研による定数増に支えられて好況であるが、児童・生徒数や教員退職者の激減にともない新規採用の門戸は急速に狭まり、卒業生数を下まわること必

至である。いずれも、何らかの抜本対策が考慮されなければならないと思われる。

なお現在、学部で推進中の大学院修士課程の設置は、新免許法による専修免許の取得に必須であるばかりか、今日、教育が多様化するなかで専門的対応が求められている教育現場のためにも早期実現が急務である。また、力量の高い教師と高度な教育研究施設への地元からの期待も極めて大きい。

以上の三点は、母校教育学部が地域大学として存立をかける課題であると同時に、今後同窓生の皆さんにも深くご理解をいただき、一層のご支援を仰がなければならないと考えている。

さて、本年は役員改選の年に当る。同窓会組織の充実、強化を図りたい。すなわち、広く同窓生の衆智を集めるために、県内十六郡市と県外からの代表を選び、将来的には支部組織の足がかりとしていきたい。また、卒業生名簿の刊行は、開学四十周年記念事業として、来年秋を目途に準備を進めている。

第二回通常総会は、八月二日(金)に信濃教育会館講堂で開催し、記念講演には大先輩である放送大学平沢弥一郎教授(昭和一八年卒)にお願いすることになっている。

同窓生には言葉のいらぬ世界がある。母校を共有したものの精神的一体感があるからである。しかし、同窓会が大きな課題を抱えるいま、言葉が、そして意見が欲しい。総会には多数ご参加いただき、多様な意見交換のおこなわれることを心からご期待申し上げている。

(鍋屋田小学校長)



工学部との合同卒業式(市民会館にて)

# 第一回総会報告

信州大学教育学部同窓会第一回総会が、昭和六十三年八月十一日午前十時より、長野市旭町信濃教育会館講堂において、一三五名にのぼる多数の参加のもとに開催された。

最初に松橋英幸同窓会会長から挨拶があり、当面の課題として、来年の四十年に向けて同窓会名簿の作成と整備、財政基盤の確立、学部大学院設置に向けての援助、数年後から予想される新採用の減少に対する対処があるという旨の発言があった。続いて、議長団の選任に移り、長坂忠彦、瀬田忠雄、滝沢忠男の三氏が選出された。また、総会の議事録署名人として原牧夫、山森綱江の両氏が選任され、書記に渡辺時夫と中村浩志両氏が任命された。

次に議事に移り、以下の四つの議案が審議された。  
 第1号議案 昭和六十二年度までの事業報告書、歳入・歳出計算書および財産目録について、幹事長の関谷俊行氏より昭和六十二年事業報告があり、続いて会計担当の岡田富雄氏より歳入・歳出決算と財産目録についての説明があった。その後、監事の清水厚実、胡桃沢一郎両氏より、適正である旨の報告があり、拍手により承認された。

第2号議案 昭和六十三年事業計画、および歳入・歳出予算書について、幹事長より事業計画案の説明があり、続いて会計担当の岡田富雄氏より予算案



講演に熱のこもる佐藤氏

の説明があり、拍手により承認された。

第3号議案 会則第6条 一正会員規定の一部改正について、幹事長より説明があり、拍手により承認された。

第4号議案 役員人事の一部変更について、幹事長より提案があり、松橋会長より

別途に説明がなされた。内容は、副会長の中島博人氏が一身上の都合により辞任し、後任に宮沢安夫理事を副会長に任ずる件、拍手により承認された。

信州大学長北条舒正氏の来賓祝辞をいただき、十一時〇五分に閉会宣言とともに、宮沢副会長の受諾挨拶があり、散会した。

引き続き、第一七回卒業生の佐藤綾子氏による記念講演が行われた。演題は、「表現化の時代に個性表現とは」であり、現在国際的に活躍されている氏の豊かな知識と深い経験に基づく、個人的なコミュニケーション論、パフォーマンス論が展開された。国際時代を迎えての自己表現の重要性、学校教育における個の主張とコミュニケーションのあり方などについての示唆に富んだ講演であった。講演後、国際会館で佐藤氏を囲んでなごやかな懇親会が持たれた。



## 事務局便り

### 卒業生名簿の刊行について

わが学部卒業生は前身校時代を含め二万余の方が健在です。昭和六十二年八月、信州大学教育学部同窓会が結成され昭和六十三年八月の第一回総会において学部創立四十周年を記念して新たな卒業生名簿を刊行することが決まりました。

これまでも昭和三十八年・五十六年の二回、卒業生名簿刊行をみておりますが、毎年三百余名の新たな同窓生が誕生していることから名簿刊行事業は急務となっております。

来る第二回総会の正式決議を経て、平成二年秋をめどに刊行の事業に着手したいと考えております。現職についておられる同窓生に関しては、来年三・四月の人事異動を待つて本格的調査を開始する予定です。このため刊行準備委員会を組織し、できるだけ充実したものにしたいと念じております。

調査に入りますと、現職の方は所属職場単位で卒業生名簿を提出していただき、それ以外の方々は個人宛調査票の返送をお願いすることになります。さらに連絡先不明の方々への対応など大がかりな作業が予想されます。

ご承知のように、名簿は、正確を期してはじめてその価値が出るわけですが、その完成に至る過程は途方もない大事業であります。各位の絶大なご支援ご協力をお願いする次第であります。

- ・ 出来上り体裁 B5版 八〇〇頁程度
- ・ 頒布予定価格 四、〇〇〇円
- ・ 刊行予定 平成二年 秋



### 教育学部同窓会の回顧と現況と展望

幹事長 関谷 俊行

一昨年の夏、学部東館E五〇四番教室での設立総会の様子が、つい昨日のことのように思い出されます。それから二年間、創設期とは申せ、まことに不手際な運営を重ねてきており、同窓の皆様がたに多々迷惑をおかけしておりますこと、改めてお詫び申し上げます。私の場合は、たまたま昭和二十七年の第一回卒業の学部教官という立場上、本会の創設以前から今日まで、約六年間にわたって関係させて頂いております。

その最初は、昭和五八年一月九日の北条学長の招集による各学部同窓会代表者懇談会に、教育学部代表として出席したことに始まります。当日は、旧制松高同窓会をはじめ教養部長まで、それぞれの代表または代理の方々が、各組織について情報を交換し、今後信州大学総合大学院の設置のために同窓会連台を設立する方向と、その推進をまず各学部長が中心になって進めていただくように確認しております。そして、その後の経過は本会会報（設立総会記念号）の第二頁下欄のとおり昭和五九年九月二五日の一期生全県総会における岡宮教育学部長からの同窓会設立要請へと続いていくわけであり、以降、同窓会問題研究委員会、設立準備委員会、設立発起人会などと会を重ねて昭和六二年八月の設立総会に到達しましたことはご承知のとおりであります。

さて、本年三月の昭和六三年度卒業生三一八名のうち、四月中旬現在で八六名の諸君が同窓会費一万円を払い込んでおられます。このことは、新卒の皆さんが信州大学総合大学院や、その基盤

となる各学部の大学院研究科修士課程（全学部中教育学部のみ未設置）実現に向けて鋭意支援している同窓会に対する熱い眼差しと理解しております。もちろん教育学部の大学院修士課程の開設は、今後これらの若い先生がたの専修免許状取得を容易にする効用もありますが、それとは別に、大変力強いパワーの表現と評価しております。これを受けて同窓会でも「学部後援」事業として初年度一〇万円、平成二年度三〇万円の大学院開設のための援助を決議しております。

つぎに、本会報の二頁で松橋会長の所信表明にあります同窓会名簿の件は、先の第一回総会の決議にしたがって、開学四〇周年を期して「信州大学教育学部同窓会名簿刊行会」のもとに「同上刊行委員会」を組織し編集刊行するよう進めております。実際にお手元に届くのは平成二年初秋ごろの予定ですが、それ以前の確認調査等にも、何分のご協力をお願い申し上げます。

また、「研究助成」事業につきましても、基金会計口座へ一般会計から一〇万円を振込み、当面は「教員養成大学・学部学生海外派遣制度」による毎年度一名の選抜学生に対する応分の援助をすることにしております。

もし夢のような展望を……とすれば、同窓会館の建設もさることながら、現在の学部の校地や校舎施設の狭苦しさの解消を信州大学長野地区キャンパス構想として、一九九八年冬季オリンピックの長野招致と共に実現したいものと、心から願うのであります。

（教育学部教授）

### —お 願 い—

同窓会費は終身会費であります。県内小・中校へは、今年も振替用紙が届きますが、二度納入されることのないようご注意ください。既に会費を納入された同窓生各位には登録ラベル貼付の上、個人宛ご案内をお届けしています。

### 会議日誌抄 （昭和六十三年度）

- 四月二十二日 学内役員会
  - 一、第一回通常総会について
  - 二、総会の各係分担について
- 五月七日 第一回幹事会
  - 一、通常総会について
  - (1) 議事内容の検討
  - (2) 事業報告書の作成
  - (3) 会計報告の作成
  - (4) 総会日程
- 六月二十六日 第一回理事会
  - 一、通常総会について
  - (1) 総会提出案件の承認
  - (2) 総会日程、各係分担決定
- 十一月六日 第二回幹事会
  - 一、通常総会のまとめ
  - 二、会務・会計の中間状況について
  - 三、今後の事業推進について
- 一月五日 第二回理事会
  - 一、今年度の事業計画と今後の推進について
- 二月二十五日 第三回幹事会
  - 一、昭和六十三年度のまとめについて
  - 二、平成元年度事業の準備について
  - 三、同窓生名簿の刊行について

## アラムナイ紹介

教育学部同窓会が発足して二年が経ちました。しかし、卒業年度や教科単位、さらには研究室ごとにこれまで活発な活動を続けているミニ同窓会が沢山あります。今回はその一部をご紹介します。今後もこのコラムを続けたいと思っています。ミニ同窓会に関する情報を事務局「会報」編集係までお寄せ下さい。

①会長又は連絡先 ②会員及び会員数 ③会の特色・最近の活動状況など

### 美術科同窓会

- ①新田 実(長野市立大豆島小学校)
- ②凶工・美術科修了・卒業生(六五〇名)
- ③昭和四十四年一月五日設立(ホテル信濃路にて)以後毎年一月五日に総会、講演会、懇親会を行っています。講演会は同窓生のどなたかにお願ひすることになっています。「会報」を年一回発行し、名簿の整理もしています。また、学部の教授が退官される折には記念祝賀会を開催してきました。今年も総会も十九回目を数え、合わせて樋口哲教授の退官記念祝賀会を五月十四日盛會裡に行いました。

### 一〇まぐさ会

- ①金井茂子・岡田徳子
- ②昭和二十八年修了・三十年卒業の女子学生希望者(五八名)
- ③昭和四十七年設立。毎年一回郡市ごとの持ち回りで当番をつとめています。年会費は五〇〇円とし、事務局の口座に振り込むシステムにしています。一年に一度日帰りか一泊の旅行をして親睦をはかっています。六十年には上諏訪温泉、六十一

年斑尾高原一泊、六十二年小布施日帰り、そして六十二年には江ノ島・鎌倉一泊旅行をいたしました。会員はそれぞれ自立心が具わっており、民生委員、婦人会長、朗読奉仕活動、女性教頭、その他地域の重要な活動に参加するなど個性的な活動をしています。子育てをばつぱつ終えて、ゆとりの時間が持てる年齢となり、益々参加者が増えることと期待しています。

### あきつ会

- ①沢沢頼子(会長は決まっていない)
- ②昭和二十一年度長野師範女子部予科入学生(四名)
- ③東信・北信・中信・南信・県外の四地域に分け、輪番で会合を企画し、毎年八月に開いています。六十一年度(中信)には乗鞍高原に出かけました。宿のご主人の案内で特別に見せていただいた「こま草」の大群落は今も脳裏に焼きついています。



千原先生と信州の鎌倉で

あまりのすばらしさに秋にもう一度ということになり、ダブル開催。八月に参加できなかった会員も加えて大盛會でした。六十二年度(県外)には横浜の中華街へ。また横浜港を海から見学。夜の中華街の散歩も大変印象的でした。六十三年度(南信)は昼神温泉で一泊しました。飯田で世界人形フェスティバルを見学。あまり見ることのできない世界の人形を見てみんな感激しました。

### 英語科同窓会

- 毎回お忙しい千原先生がおでかけ下さることは会員の誇りです。ご都合のつく限り奥様もご同伴下さり、いろいろお話が伺えるのが会員の楽しみの一つです。出席は十数名から二十名くらいです。欠席者の便りを当番が印刷して配ってくれるので皆さんの様子がわかります。欠席者も通信費を負担し、全員に写真と一緒に事後報告を出しています。
- ①芝波田三男(小諸高等学校)
  - ②英語科卒業生および英語教育に携わる学部卒業生(約六〇〇名)
  - ③二年に一回(一月五日)学部で総会・新年会を兼ねて研究会を開いています。昭和六十四年度は、四十名の会員が集まって下記の研究発表会を聞き、その後、「ホテル信濃路」で新年会を行いました。
    - (a) 金森輝雄 先生(軽沢沢高校) 「中学校と高等学校の英語教師を体験して」
    - (b) 溝上正弘 先生(常盤中学校) 「インプット理論の実践授業」
- 尚、昭和六十二年八月には、ホテル信濃路で定年退官された竹内 亨教授の退官記念祝賀会を盛大に開きました。記念事業の一環として『記念論文集』を出版致しました。また、残部がありますので、希望者は学部英語科にご連絡下さい(一部二、五〇〇円です)。

同窓生便り

登校拒否児の学校 — 原峠分室 —

中学に分室なんてあるんですか？この質問から相手方との話しが進んでいく。  
上田盆地の南方、小牧山の西よりの稜線近くに児童福祉施設原峠保育園があり、その敷地内に上田市立城下小学校と第四中学校の分室がある。

教員は小学校一名、中学校二名（年度途中で増員されることもある）計三名である。

昭和六十三年度における分室の児童生徒数は、年度当初二十一名、途中転入十四名、転出七名、三月末二十八名であった。つまり、一年間で二十一名の異動があったわけである。

生徒と接していても頭にこびりついているのが生徒の質と量の問題である。

量というのは、分室に来るまでの学習量の少なさである。中学生は全員が登校拒否経験者でありそれも小学校から始まっている者が多い。三月末の三年生十二名の中学校だけの欠席日数平均は二百日を超えていた。出席日数の中には保健室登校や遅刻早退も数多く含まれており、これらを合わせた総欠課時数は膨大な数字になる。この生徒の殆どが高校進学希望である。登校拒否経験者の高校での定着率の低さ、私学の進学校志向等相まって分室卒業生の進路は極め

上田市立第四中学校教諭 小林 忠 啓  
て厳しいものになってきている。

質というのは、生徒の学習意欲と態度の問題である。人間の情意的側面である意欲や態度は、教師が一方的に生徒に教えるというかわり方だけでは育てられない面が強い。特に、長期にわたる登校拒否の末、当分室に転学してきた生徒たちは分からない苦しさを理解してもらえなかったことも影響して、肉親だけでなく教師や友人に対しても強い不信任感を持っている。この生徒たちと如何にして心を通じ合い、広げ、学習に参加させていくか、秘伝を教えてもらわな

いまま試行錯誤の毎日である。  
「おつ、丸がついている」、「二十点もとれた」と言って喜ぶ生徒。分かったという喜びや完成させたという成就感を体得させながら一つ一つ自信を回復させていく。遅々とした学習、耐性の弱さを嘆き、原峠の豊かな自然の中へ逃げ込んで気持ちを鎮めることもある。

第二号で岡宮二郎先生が「結局教師にとって嬉しいことは毎日が平凡でも、まともな授業を続けて行けるときであろう」と言われていた。特殊学級における平凡な毎日とまともな授業とは、今続けている生徒に教わることの多い毎日と授業のことかもしれない。

自己エコー

島田 英一

第二次大戦後の乱れた世相が一段落した頃昭和二十九年四月から四年間、私は、学

部の学生だった。当時は多くの人々が経済的には貧困生活を送ったと思う。私も旧県会議事堂の窓ふきや散髪モデル、書道塾の雇われ教師など様々なアルバイトで学費や生活費等を苦面しながら卒業した。

私は、四年になって寮生活をしたが、三年間は小諸の自宅から通学した。早朝六時に家を出発、学校着が八時半、その頃の交通事情の結果だが、通学の往復所要時間は五時間余りだった。しかし、通学に時間の浪費をしたとは思わない。むしろ、その間の大勢の友達との語らいがなつかしい。  
長野駅から学部へ向う朝の県町通りは、車は西高行きの定期バスが一台通るだけ、全面が歩道のように、私たち学生の長蛇の列だった。その列の中、詰襟の学生服、鞆代わりに風呂敷包みを小脇に抱え、素足に下駄履でガラガラ歩いていた私の姿は、今、自慢にもならない風物詩のように思えてきた。  
(長野県教育センター・部長)

「研究助成金」 第一号

竹野 昌代 (国語科四年生)



一九八五年入学。一九八八年九月より一年間の予定で中国湖北省武漢市武漢大学に文部省教員養成大学・学部学生海外派遣制度で留学中(中国文学専攻)。

〈竹野さんの便り〉

このたびは助成金いただきましてありがとうございます。貴重なお金、こちらで有効に使わせていただくつもりです。(中略)

武漢だけでなく、中国国内他の場所も、あちこち見て回りたいと思っています。あと約十ヶ月、時間を無駄にせぬよう頑張ります。

一九八九年五月二十二日

## 「志ある者の育成」にご協力を!

信州大学教育学部長 鈴木金彌



この度、千原勝美前学部長の後を受け、平成元年四月より学部長を仰せつかりました。

ここでは、四月五日に行われました教養部からの学部進学生の受入式で新二次生に対して話した祝辞を若干敷えんして申し上げ、併せてご協力をお願いし、ご挨拶に代えさせていただきます。

学部進学生に対する祝辞の骨子は、二点あります。第一点は、ひと口に言えば、「教師が人間一生の仕事として価値があると思う者は、当学部で勉強せよ。それは価値がないと思う者は、一日も早く自分の望む道に進進せよ」ということです。そして、このことにつきまして同窓生の皆さま方のご協力をぜひ頂きたいと考えています。つまり、現在教職にある方もそうでない方も、「教職は人間一生の仕事として価値がある」と思う子弟を身のある方は、子どもたちがその姿をみてそう思うような日々を送って欲しいと思うのです。かつて、信州教育ということと共に関国の人のびとから尊敬を受けていた信州の教師たちを支えていた精神のひとつに、「教育は男子が生涯を賭けるに足る仕事」という考え方がありました。又、郷党も身のまわりから最も優れた子弟を選んで、「教師になつて郷里へ帰つて来て欲しい」と願う精神をもっていました。今日わが国ではこのような精神は全

国的に衰えたように思いますが、わが教育学部とその同窓会の中には教育を自分の生涯を賭けるに足る仕事と思う人に満ち溢れ、学生たちの中には自分の郷里だけでなく全世界に優れた教師として雄飛しようとする志のある者がひとりでも多く育つことを私は願っているのです。優れた教師を送り出す限り、どんなに出超になつても他県からうらまされたり、貿易摩擦を生じたりすることは無いでしょう。

第二点は、ひと口に言えば、「教師としてのプロになることを志せ」ということです。そして、そのためには今日からどれ位時間をかけて特定の分野で努力すれば、その道のプロになれるかを具体的に示したことです。この問題に関する欧米の研究結果をも参照し、合計五〇〇〇時間を越えた精進は努力した証であり、合計五、〇〇〇時間を越えた精進は素人離れた証であり、それが一〇、〇〇〇時間を越えた時プロの世界の入口に達すると話しました。そして、卒業までの三年間にせめてひとつでもふたつでも努力した証をもつ分野を作るように希望しました。衆知のように、今日教師の専門性が厳しく問われ、いわばプロの教師として育っていくことが強く求められています。初任者研修制度や専修免許状の新設等からもわかるように、今日では教員養成はいわば生涯教育の枠組の中で大学、教育現場、その他の社会資源を総動員してプロとしての資質を育成していく方向に変わりつつあります。それ故、この道も又同窓生

の皆さま方のご協力なしには達成できません。又、特定の分野に五、〇〇〇時間、一〇、〇〇〇時間を費して精進するということは、とても「志なき者」のできる技ではありません。この意味で、「志ある者の育成にご協力を」という標題を掲げました。ことば足らずの拙文でさぞお読みにくかったことと思いますが、意のある所を汲んでご協力頂ければ、これに勝る喜びはありません。末筆ながら、同窓生各位のご健勝を心から祈り上げます。

## 信州大学教育学研究科(修士課程) 設置の見通しについて

大学院設置準備委員長 吉岡利治

大学院の設置は本学部の十数年来の悲願である。大学院設置の必要性に関しては前号(第2号)に略述したので今回はその後の進展状況及び計画内容を紹介してみたい。

当面急がれる事は教官組織の整備である。つまり誰が何を担当するかである。このためには各教官の教育研究業績書の作成が必要である。各教官が永年積み重ねてきた教育研究業績を著書・論文毎に二百字以内の概要にまとめたもので、これらで手書きであったものを活字に改める作業である。三月下旬から作業にかかり、五月上旬には初校に入り急ピッチで進めている。幸いにして全教官一致して事に臨み、絶大な協力をえたので比較的作業が順調に進行している。

次に必要なのは設置の基準となる「設置計画書」の作成である。「設置計画書」は過去五次にわたつ

て作成され、その都度実現性の高い内容を目指してきた。本学部大学院の内容面での特徴は現職教員にも研修の機会を与える大学院を考えている事である。現職三年以上の経歴を持つ者に対し入学資格（入学試験受験後）が与えられる。しかも入学後一年間大学院において講義を受けた後、二年目は教育現場に復帰して教育に携わりながら研究を続けることができるような方法を考えている。このための具体的方法としては春、夏、冬の休業期間に開講するとか、毎週一定の日時を決めて開講したり夜間に開講する等の工夫をし、現職教員も参加し易い方法を考えている。また、ときには大学教官が教育現場に赴き研究の指導を行なう方法も検討されている。また、教員養成系の大学・学部においては教育実践の場と教育研究の場を有機的に関連させることが望ましく、大学院をそのような形で設置することがより稔りある研究のためにも必要であると考え次第である。

さらに本学では学校教育関係者のみに限定せず社会教育担当者および企業の従事者にも広く門戸を開く構想を持っている。斯る企画は全国的にみても数少ない例ではなからうか。さらに、短大出身者であっても所定の単位以上を修得し、教育職員免許法による、小学校、中学校、幼稚園の教諭の一種普通免許状、または高等学校教諭普通免許状を持つている現職教員にも入学資格を認めている。以上の様な内容の計画書を携えて近く文部省の指導を受ける予定である。準備作業に当っている当事者としては近々の実現を願っている。また、大学院設置を一日も早く実現して欲しいと念じておられる同窓生諸氏の熱い視線を思う時大学院実現に向け、学部をあげて全力投球をしようとして堅く決意している次第である。時間がたてば条件が整うという性質のものではない。今が最適と考えている。皆さんのご支援を切望するものである。

### 画像情報ネットワークシステムについて

高 哲夫



信州大学は八学部と教養部からなる総合大学ですが、設立の経過から長野県下の三市一村に五つのキャンパスが分散しているいわゆるタコ足大学です。このため、幾多の不便と無駄があり、その力を総合するのにこれまでいろいろな努力を重ねられてきました。最近の技術の進歩は、各キャンパス間を何等かのネットワークで結び、分散したキャンパスを統合することを可能としました。信州大学が導入しつつあるシステムは、デジタルマイクロ波無線回線により各キャンパスを接続しようとするものです。既にその第一段階として、若里（工学部）・旭キャンパス（人文・経済・理・医学部および教養部）間では敷設が終わり、試行的に運用が開始されております。ひきつづいて常田キャンパス（繊維学部）、数年後に予定されている西長野（教育学部）と南箕輪（農学部）のキャンパスに延長敷設されますと、全てのキャンパスがネットワークで結ばれることとなります。

ここで、その概要をご紹介します。一、動画像による遠隔地間の講義、セミナー、会議の開催

分散しているキャンパス間で複数の学部に通ずる講義、セミナーまたは会議等を動画像を通して行います。すなわち、講義をする教官の姿や会議室の情景、書画カメラまたは電子黒板による情報などを適宜選択し、三つのテレビ画面により送

信受信双方方向に伝えます。もちろん、音声も伝えることができます。これらは二つのキャンパス間に限らず、多数のキャンパス間にまたがることも可能です。このため、当面、各キャンパスにこのような機能を備えた大講義室（約二〇〇名収容）と小講義室（会議室兼用、一〇〜二〇名収容）を準備します。

#### 二、情報ネットワーク

旭キャンパスと若里キャンパスにはホストコンピュータがあり、この両ホストコンピュータを結ぶ回線を可能な限り高速にし、他のキャンパスへはできるだけ多数の端末をひきます。また、各キャンパス内は、大容量のLAN（学内通信回路網）によりネットワークを構成します。

#### 三、内線電話の直通化

キャンパス間の電話が、トータルダイヤル化により内線直通になります。

以上が画像情報ネットワークシステムの概要ですが、その設置によりタコ足大学という信州大学の宿命が克服され、真の総合大学としての機能が発揮されるものと期待されます。（情報ネットワークシステム専門部会教育学部代表）

#### 六十三年度転退職教員

深沢 恭子 先生（体育実技）

昭和二十五年三月 長野師範学校

昭和二十六年一月 信州大学教育学部

平成元年三月 停年により退職

平成元年四月 信州大学名誉教授

樋口 哲 先生（絵画）

昭和五十八年四月 信州大学教育学部

平成元年三月 停年により退職

小林 悦雄 先生（英語科教育学）

昭和六十二年四月 信州大学教育学部

平成元年三月 退職（立教大学へ転出）

信州大学  
教育学部  
同窓会

# 第二回総会の開催 (通知)

日時 平成元年八月十一日(金)午前十時(正確)  
 会場 長野市旭町信濃教育会館講堂

次 会 日  
 第一、開 会  
 第二、会長挨拶  
 第三、議長団選任  
 第四、議事録署名人の選任並びに書記の任命  
 第五、議 事  
 第一号議案 昭和六十三年度事業報告書、  
 歳入・歳出計算書および財産目録の承認について  
 第二号議案 信州大学教育学部同窓生名簿刊行会の設置について  
 第三号議案 平成元年度事業計画書(案)および歳入・歳出予算書(案)の承認について  
 第四号議案 会則第八条2役員規定の一部改正について  
 第五号議案 役員の変更および名誉会長の推戴について  
 第六号議案 大学院教育学研究科(修士課程)設置要望書について  
 六、来賓祝辞  
 七、閉 会

## 記念講演 (一般公開)

「古典の中の人とからだ」

—ダンテの神曲・地獄編から—

平沢 彌一郎氏 (放送大学教授)

## 〈講演趣旨〉

イタリア詩人Dante Alighieriは、13世紀から14世紀にかけて、中世と近世とを分つ分水嶺ともいべき巨峰。フィレンツェを追放されたかれは、辛苦の放浪20年の間に不朽の名作「神曲」を書きあげた。

今回は、その「神曲」の中から「地獄編」を描いたフランスの画家ドレイ(一八三二〜一八八六)の「ダンテ交響曲」を聞きながら紹介する。ダンテは人間をどうみたのか、そして人々のからだを地獄の中でどうあつかっているのかについて探索してゆく。

## プロフィール



大正十二年長野県飯田市生まれ。昭和十八年長野師範学校第一部卒業。同年東京体育専門学校剣道科入学。昭和二十四年同校卒業。昭和二十四〜三十一年青山学院大学講師。昭和三十一年〜四十一年静岡大学助教(工学部)。昭和四十一年〜五十二年同大学教養部教授。五十二年から現在まで放送大学教授。東京第一学習センターおよび甲府地区学習センター所長。昭和三十五年「接地足跡面積と直立姿勢の安定性について」の主論文により医学博士の称号を受け、専攻は「運動神経生理学」。

著書に「足のうらをはかる」(ポプラ社)、「新しい人体論」(日本放送出版協会)など多数。

記念講演終了後、犀北館において、懇親会(会費五、〇〇〇円)を開催します。こちらへも多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

## 〈編集後記〉

御存じの通り、平成元年度から新しい教員免許法が施行されました。従来の免許制度では教員の普通免許状は一級が最高でしたが、この新しい制度により、最高の免許状は専修免許状となりました。これは大学院の修士課程を修了したものに与えられます。また、将来高等学校の校長になるためには、大学院を卒業していなければなりません。これは、現在のところ大学院の無い信州大学にとっては大変重大な問題です。周囲を見回して見ると、大学院を新設した大学が増えました。上越教育大、新潟大、金沢大、福島大、静岡大など軒並みという感すらあります。長野県教育の向上に貢献し、地域の高校生にとって魅力ある大学とするためには、なんととしても、信州大学教育学部に大学院を設立しなければなりません。同窓生の力強い団結が必要の時と思います。

第3号では、アラムナイの特集を組んでみました。地味ではあっても暖かい友情の絆で結ばれた同窓生の輪が地域や年代を越えて幾重にも広がっていることを実感しました。この多数の輪を大きな太い輪に育て、母校だけでなく信州教育の更なる発展を期するためには同窓生の奮起が必要で、教育学部同窓会が益々充実発展しますことを念じつつ編集後記といたします。(古川・渡辺)